

自分の思いを伝えるために

生徒作品例

職場体験活動を終えた生徒が、父親に対して感謝の心を伝えようとした手紙が次のものです。

拝啓 ○○中のあじさいがあざやかを増す今日この頃、あなたの体調はお変わりないでしょうか。

いつもお仕事お疲れ様です。そぞかしお疲れのことと思います。私は先日の職場体験活動を通していろいろなことを学ぶことができました。

まず仕事をすることの大変さが分かりました。同じような仕事を繰り返す中、面倒くさがらずにどんな作業も最後まできちんとやり通すということは簡単に見えて実はとても大変だと分かりました。

私は今まで会社から帰ってごろごろしているお父さんを見て「だらしないなあ」とか「そんなに疲れるのかなあ」とか思って、お父さんのことを理解しようとしていませんでした。ところが、この機会を通して「お父さん」を少し理解できてきたような気がします。

この五日間を終えて肉体的にも精神的にもひどく疲れました。上司に対する気疲れ、仕事の上での肉体的な疲労、このような生活をもう二十年以上も続けてきたのですね。もちろん仕事は楽しいと思いますが、本当に感謝しています。辛いこともあったと思います。

でも私たちのために一所懸命働いてくれたおかげで私たちは旅行もできるし、買い物もできます。私は家族に囲まれて、お父さんのおかげで本当に幸せです。ありがとう。

これからも私はお父さんにお世話になるとと思いますが、よろしくお願いします。お体に気をつけて。

敬具

七月十六日

○○○○

○○○○ 様

指導者としてのコメント

(1) 手紙という形式の弊害

時候のあいさつや結びの部分など、あまりにも他人行儀になってしまい、思いが素直に伝わらなくなってしまう。もっと素直に思いをぶつけられるように、形式にこだわりすぎないようにするべきであった。堅苦しい文面では、思いは出にくくなる。結果的に思いが伝わらなくなってしまう。

(2) より自分の思いを伝えるために

「だらしないなあ」「そんなに疲れるのかなあ」など、よい表現も見られるが、自分の思いを伝えるには、もっとふくらませなければならない。「理解しようとしていませんでした」などと、頭で分かっていることを表現するのではなく、心からの思いを表現できるようでなければならない。「肉体的にも精神的にもひどく疲れました」などは、説明しているだけで自分の感動を表現しておらず、推敲の余地がある。

手紙は相手にわたすもの

作品例に出てきた父親は、娘から前掲のような手紙をもらい、どのような思いを抱くでしょうか。そう考えると、手紙のもつ効果というものを国語の授業に生かさない手はありません。手紙の場合、書いたものが相手に渡ること、相手からの評価（反応）を得ることができます。これは、納得を伴う手紙がもつ教育的効果の一つとも言えます。

今後も生徒の実体験に基づく実感を伴った実践を重ね、自分の思いを込めた文章を本気で書ける生徒を育てていきたいと考えます。